

大芦小学校に関する懇談会

令和8年 6 月25 日(木) ①13:00～13:45

②16:00～17:00

③17:00～17:30

【参加者数】

・大芦小学校保護者：実人数 16名
のべ人数 ①8名 ②10名 ③7名

【出席者】

①根井副課長、堀主任
②及び③飯島課長、根井副課長、堀主任

【主な意見とその回答】

●（保護者）

吹上小学校は小谷小学校を統合した際に教室数を増やしていると思うが、現在の吹上小学校の教室数を教えてほしい。大芦小学校では、1学年2教室を使つての授業も実施しているので、吹上小学校の教室の活用方法を知りたい。

⇒22 教室まで普通教室に対応可能。なお、令和10年度の学級数の見込みは、19学級であることから、十分に対応できるものと考えている。

また、レベル分けにより学習効果が高まるような授業については、実施方法は異なるが吹上小学校でも実施している。

●（保護者）

先日の懇談会の議事録で、大芦小学校の放課後児童クラブ利用者の全員が、吹上小学校の放課後児童クラブを利用可能であると回答があったが、吹上小学校の児童の入室要件との違いはあるか。

⇒入室要件は一律となる。現時点での利用者は全員入室可能であるが、各年度の利用希望状況によっては、保育に欠ける要件の程度の高い方から、定員の範囲での入室となる。放課後児童クラブの担当課であるこども応援課からは、定員には余裕があると聞いている。

●（保護者）

吹上小学校の運動会では、小谷地区と大芦地区の保護者については、自家用車での来校が認められているようだが、統合後も大芦地区の保護者に対して同様の取り扱いになるのか。

⇒現時点では、運動会に限らず、授業参観などにおいても保護者の自家用車での来校を認めている。統合後については、世帯数等の状況を踏まえて判断する予定である。

- (保護者)

通学路の整備について、車通りの多い富士見通りや駅南口通りには、街路樹があるところは歩道が広くガードレールも整備されているが、急に狭くなる場所では危険な箇所が想定される。また、富士電機の東側の道路についても、グリーンベルトや街路灯が整備されていない部分があるため、配慮いただきたい。

⇒確認し、関係各所と協議する。

- (保護者)

旧笠原小学校については、総合政策課で活用計画を策定していると思うが、今後開催が予定されている住民説明会では、総合政策課に同席いただき、跡地活用に係るロードマップ等を説明できるように臨んでほしい。

⇒総合政策課の出席の可否も含め、跡地活用の進め方について説明できるように調整する。

- (保護者)

令和10年度の統合予定が再度延期になってしまう可能性はあるか。

⇒市教育委員会としては、令和10年度の統合に向けて取組を進めていく。最終的には、議会の議決をもって決定となるため、議会で否決となった場合には、スケジュールを変更する可能性がある。

- (保護者)

小規模な学校での教育を望んで、吹上小学校から大芦小学校へ転校してきた方が何名かいる。統合となった場合、再度、吹上小学校に戻るようになるが、子どもたちのメンタルケアはどのように考えているか。

⇒通学区域の弾力化を活用して吹上小学校から転校する場合には、大芦小学校の統合予定時期について説明し、御理解いただいた上で、転校の手続きをしていただいていると認識している。しかしながら、吹上小学校に戻ることもなった際には、負担になることも想定されるため、対象の児童については、教職員と情報共有しつつ注視していく。

- (保護者)

吹上小学校の先生や在校生、保護者に対して、大芦小学校と統合となった場合のメリットやデメリットを確認しているか。

⇒鴻巣市立小・中学校のあり方研究懇話会や鴻巣市立小・中学校通学区域審議会では、吹上小学校の校長やPTAにも参加いただいて御意見を伺っているが、吹上小学校の先生や在校生、保護者全体への聞き取りは行っていない。

- (保護者)

先日の懇談会の議事録によると、複式学級になってしまった場合のプランはないと回答されてい

るが、バックアッププランを持たずに進めていくことはリスクが高いと考えるので、具体的なプランを示すべきではないか。

⇒市教育委員会としては、複式学級を避けるために統合の取り組みを進めているため、複式学級になった場合の具体的な計画は策定していない。なお、学校支援課にて、加須市や鳩山町の複式学級の様子を視察するなど、仮に複式学級になるとしても、全く状況がわからないということにならないよう、情報収集に努めている。

- （保護者）

新1年生以降は吹上小学校に入学させ、大芦小学校の在校生がいなくなった時点で閉校とすることはできないか。

⇒市教育委員会としては、在校生のみを残すことは考えていない。極少数になった場合の課題等を踏まえ、そのような状況にならないよう取組を進めている。

また、新1年生のみ吹上小学校を指定校とすることはできない。現在は、あくまで、指定校変更の弾力的な運用により、各家庭の判断で吹上小学校へ就学している。

- （保護者）

大芦小学校の在校生が、吹上小学校に行くことはできるか。反対に、吹上小学校から大芦小学校に行くことはできるか。

⇒通学区域の弾力化により、大芦小学校を指定校とする地域の児童は、吹上小学校に就学することは可能。また、吹上富士見の一部の地域となるが、吹上小学校から大芦小学校へ就学することも可能。吹上富士見の一部地域の弾力化は、平成15年度頃から通学区域の見直しについて議論があった背景も含め、鴻巣市立小・中学校通学区域審議会の審議会委員より意見をいただきながら、教育委員会にて決定したものである。

旧小谷小学校の地域においても、鴻巣市立小・中学校通学区域等審議会の答申を踏まえ、教育委員会が吹上小学校を指定校として定めている。これを覆して、大芦小学校にも通学を可能とすることは難しい。また、地域全体で通学する学校を自由に選択できることとした場合、児童数が定まらず、学校運営等に支障が出てしまう可能性があるため、本市では指定校制としている。

- （保護者）

現在の大芦小学校の4年生は、吹上小学校で6年生の1年間を過ごして卒業となるが、卒業式や卒業アルバムはどのようになるのか。

⇒卒業アルバムについては、大芦小学校の児童に限らず高学年時の写真を使うことになる。現在の4年生は吹上小学校の6年生の写真が卒業アルバムに掲載される。

なお、統合準備委員会で作成する閉校記念誌では、各年代の写真に加え、在校生の在校期間中の写真も掲載している。

- （保護者）

少人数で中学校に入学した場合の不登校数について把握しているか。

⇒各学校の不登校数については把握している。

- （保護者）

統合によって大芦小学校から吹上小学校に行った子どもたちが、不登校になった場合のケアはどのように考えているか。

⇒不登校の要因は、子どもによって様々であることから、他の子どもたち同様に、教育支援センター等と情報共有しながら、対応を行っていく。

- （保護者）

統合予定年度が令和8年度から先延ばしになっている認識だが、議会での議決が得られないことが原因か。

⇒令和4年度に鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会から受けた市内小・中学校の適正規模及び適正配置計画に関する答申を踏まえ、教育委員会が策定した計画により、大芦小学校と吹上小学校については、令和6年度から令和9年度を予定期間とする統合に向けた取り組みを進めてきた。

昨年度までは、令和9年度の統合に向けて取り組みを進めていたが、保護者をはじめとする地域の方々から通学区域の見直しに関する要望があったことから、アンケートを実施した。その結果、小谷小学校との統合時と同様の準備期間を確保することが困難となったため、現在は令和10年度の統合に向けて準備を進めている。

なお、議会に対しては、大芦小学校の統合に関する説明や条例改正の議案をこれまで提出していないため、否決により統合時期が先延ばしになったものではない。

- （保護者）

人数が少ないから統合することになったのか。統合になる経緯について、改めて説明してほしい。

⇒国が平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を策定し、これを受けて、市教育委員会では「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本的な考え方」を策定した。その中で、「すべての学級が単学級となる又は予測される状態であって、集団教育活動に制約が生じる場合」など、学校の存置を検討する基準を定めている。

大芦小学校の場合は、児童数の減少が大きな要因の1つである。その後、有識者やPTAの代表を委員とする鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会を開催し、統合に向けた取り組みを進めていくことについて諮問を行い、議論していただくとともに様々な意見をいただきながら、答申をいただいた。この答申を踏まえ策定した計画により、教育委員会では、令和9年度までという期間を定めて統合の取組を進めてきたが、現在は令和10年度に向けて取組を進めている。

- （保護者）

最終的に統合の決定権を持つのは、教育委員会なのか。

⇒議会において、条例改正の議案を議決することが正式な決定。

- （保護者）

保護者や子どもたちにもしっかり説明をしていただきたい。

⇒議会での説明の後に、保護者をはじめとした地域の方への説明会を実施する予定。

また、議会の議決をいただいた後には、市教育委員会や校長からも、児童に対して説明する機会を設ける予定。

- （保護者）

保護者や子どもたちが納得できるように説明をお願いしたい。

⇒丁寧に説明していく。

- （保護者）

小谷小学校の例でよいので、交流事業の具体的な内容を教えてほしい。交流事業は学年ごとに行うものか。

⇒オンラインでの交流会を実施した後、吹上小学校にて2回の交流事業を実施。自己紹介、歌やダンス、算数や理科の授業、体を動かす運動、レクリエーションを行った。交流事業は学年ごとに実施している。

【小谷小学校の例】

第1回(オンライン)

自己紹介・校歌紹介・レクリエーション(合唱、運動等)・学校探検・感想発表

第2回

・1年:体育(ボール渡しリレー)・国語

・2年:算数(1mを探そう)・体育(縄跳び)

・3年:体育(リレー)・クラブ見学

・4年:国語・クラブ見学

・5年:ペーパー芯ロケット(理科)・クラブ見学

- （保護者）

今すぐの回答でなくても構わないが、吹上小学校と大芦小学校の違いや、メリット・デメリットなどを教えてほしい。こういった現状がわからないと、意見を出すことも難しい。

⇒吹上小学校と大芦小学校のメリットやデメリットについては、個人の感じ方によって異なるため、お示しすることは難しい。校庭面積の比較など、客観的な数値であれば示すことは可能。

- （保護者）

懇談会や意見交換会を頻繁にやっていただけないか。

⇒皆さんが不安に思うことや、疑問の解消については、意見交換会の場だけではなく、個別に対応していきたいと考えている。9月議会の説明後には、保護者の皆さんを含めた地域全体に向けて意見交換会を実施する予定。

- （保護者）

統合について9月議会で説明するという方針は、教育委員会で決めていることか。
⇒市教育委員会にて決めている。

- （保護者）

過去の取り組みで配布された資料を全部配布してほしい。
⇒e メッセージや郵送での文書には、過去の資料が掲載された市ホームページのURLやQRコードが記載されており、そちらで閲覧可能。本日の議事録もホームページで公開する際に、保護者の皆さんには e メッセージ等で通知する。

-----①ここまで-----

- （保護者）

令和 10 年度に複式学級が予測されるとのことだが、仮に複式学級とならなかった場合、統合は進まなくなるのか。

⇒複式学級になることは、統合の前提条件ではない。市教育委員会では「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本的な考え方」を策定しており、学校の存置を検討する基準を「すべての学級が単学級となる又は予測される状態であって、集団教育活動に制約が生じる場合」と定めている。

また、統合年度については、鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会から市内小・中学校の適正規模及び適正配置計画の答申を踏まえ、教育委員会が策定した計画により、大芦小学校と吹上小学校について、令和6年度から令和9年度を予定期間とした統合に向けた取組を進めてきた。近年、大芦小学校の入学者数は1桁台で推移しており、複式学級の発生が見込まれることは、統合年度を判断する上での大きな要因となっている。

なお、昨年度までは、令和9年度の統合に向けて取組を進めていたが、通学区域の見直しに関するアンケート調査や、鴻巣市立小・中学校通学区域審議会での協議、PTA によるアンケート調査、意見交換会等の内容を踏まえると、引き続き検討が必要であり、小谷小学校との統合時と同様の準備期間を確保することが困難となった。そのため、現在は令和10年度の統合に向けて準備を進めている。

- （保護者）

通学区域の弾力化により大芦小学校へ通学することができることについて、吹上小学校の保護者に対して周知されているか。

⇒令和7年 11 月 30 日に開催した説明会で大芦小学校及び吹上小学校の在校生、未就学児保護者に対して説明している。

また、令和8年1月中旬には、令和 10 年度に向けて取組を進めていくことに変更されたことについても周知を行っている。

- (保護者)

小谷小学校の統合準備委員会のスケジュールを、大芦小学校の統合年度に当てはめると、期間が短いのではないか。

⇒小谷小学校の統合時には、令和6年度の1年間が統合の準備期間である。大芦小学校は令和9年度の1年間を統合の準備期間として考えており、同様の期間が確保できる。

- (保護者)

小谷小学校の統合後に、スケジュールについての見直しや改善点の意見がでているか。

⇒統合後に保護者に対してもアンケートを実施しているが、スケジュールに関する意見はいただいていない。

以前の説明会にて大芦小学校の保護者から、旧小谷小学校の保護者に当時不安だったことなどを直接質問したいという意見をいただいているが、意見交換会で直接回答するのではなく、文書での回答であれば協力いただける。スケジュールに関して不安な点などは、文書でのやりとりにより旧小谷小学校の保護者から回答をいただくことはできる。

なお、統合準備委員会は、市予算の執行や学校の人事の都合から、4月になってから設置することになるが、事前に準備できることがあれば、対応することは可能。

- (保護者)

大芦小学校の少人数の良さもあるし、人数が少なくなっていく中で統合になることも個人的には仕方ないと考えているが、子どもたちには寂しい思いをしてほしくない。例えば、吹上小学校が4学級あったとして、大芦小学校の1学級16人を4人ずつ均等に分けるのではなく、8人を2学級に分けることや、大芦小学校の先生を担任につけてもらうなど、統合するにしても、子どもたちが良かったと思える配慮を希望する。

⇒学級編成については、大芦小学校と吹上小学校で協議していくことになるので、各学校の教職員に共有する。また、教員の配置についても担当部署と共有し、県に要望する。

- (保護者)

同じ学年に知っている先生がいることは心強いと考えているので、先生の配置については配慮をお願いしたい。

- (保護者)

子どもが4人(6年生、3年生、年長、1歳)おり、それぞれの思いがある。

6年生は、旧小谷小学校のように、自分たちの代で閉校記念式典を行い、楽しかったという気持ちで卒業できると思っていた。しかし、統合が先延ばしになったことで式典には参加できなくなってしまった。

3年生は、入学時には、具体的な統合年度が決まっていなかったため、このまま卒業したいという思いがある。

年長の子については、本人が判断できる問題ではないため、明確に統合年度を決めてもらいたい

と思っている。一方で、親としては、上の兄弟と一緒に通学したり、運動会で活躍している姿を見たいという気持ちもある。

一番下の子についても、早く方針を決めてほしいという思いがある。これまで度重なる変更により振り回されているように感じており、明確な方向性を示してほしい。ただし、3年生については、入学時に統合時期が決まっていなかったことや、統合後は児童数が大幅に増えることもあるため、十分に配慮いただきたい。

⇒式典については、地域の方や卒業生にも参加いただいているので、ぜひ参加してほしい。統合の時期については、昨年度は予定を延期することとなったが、今回説明させていただいているとおり、令和10年度の統合で議会に提案させていただく方針である。

- （保護者）

子どもが吹上小学校（鉄筋校舎）に通学しているが、休み時間中にトイレを使用できないと言っている。数が不足しているように感じる。統合により、人数が増えることにより、この問題がもっと顕在化するのではないか。人数が増えることによる課題を把握して、対処してもらいたい。

⇒学校の状況を確認して、対応を検討する。

- （保護者）

昨年度、1年間は吹上小学校にいて、少人数が良いと思い、今年度から大芦小学校に転校してきた。昨年度末（2～3月頃）、来年度の学校を吹上小学校にするか、大芦小学校にするか、丸を付けて提出したが、そもそも統合の予定があることを聞いていなかった。統合のことを聞いていれば、急いで転校する必要はなかった。吹上小学校に大芦小学校への転校を問い合わせた際、教頭先生からは統合が予定されている旨の説明はなかった。吹上小学校から転校する時も、先生の対応は「いなくなるなら、いいですよ」という対応だった。統合の件は、教員全員に共有されているのか。

⇒意見交換会等の開催に加え、終了後には議事録を送付するなど周知に努めている。また、広報紙にも統合の計画についてお知らせしている。

吹上小学校から大芦小学校に転校する手続きの際には、学務課で統合の計画がある旨、御説明させていただいている。引き続き、同様の対応を徹底していく。

大芦小学校から吹上小学校に戻ることもなる児童については、教職員と情報共有しつつ注視していく。吹上小学校での対応については、市教育委員会から改めて今後の統合予定などの情報を共有する。

- （保護者）

初回から参加しているが、最初の2年間は説明の機会が頻繁に設けられていたが、その後2年ほど空白の期間があった。その間に入学した方に対しては、あまり情報が行き届いていないのではないか。また、空白の期間があったので、今回ももしかしたら白紙になるのではないかという思いもある。

⇒進捗状況などについては、積極的な情報共有に努めていく。また、教育委員会としては、令和10年度の統合に向けて取組を進めていく考えであり、計画を白紙とすることは考えていない。

※過去の意見交換会等の開催や議事録については、以下の URL から確認可能
(意見交換会)

<https://www.city.kounosu.saitama.jp/site/konosu-education/21487.html>

(懇談会)

<https://www.city.kounosu.saitama.jp/site/konosu-education/21483.html>

- (保護者)

通学区の弾力化については、大芦小学校から吹上小学校に事前に行ってもらおうという意図が見える。もし、双方向で行き来することを意図しているのであれば、吹上小学校側にも通知だけでなく、詳細に説明する機会を設けていただき、1年でも2年でも大芦小学校に通いたいという保護者に対して適切な判断ができるようにしていただきたい。

- (保護者)

大芦小学校を、少人数の学校として残してほしいという意見があると聞いている。こういったことを議会で議論してもらうことはできないか。

⇒前回実施したオンラインの懇談会でも、小規模特認校として残してほしいなど、同様の意見をいただいている。議会では、市教育委員会から適正配置の考え方を前提に、条例改正の案を作成、説明していくことになる。これに対して、議会での議論の中で小規模特認校として残していくべきという意見が出される可能性もある。

- (保護者)

トイレも行けない状況を適正な配置というのか。トイレの件は以前から、問題になっているのではないか。吹上小学校の保護者に確認すべき。

⇒トイレの課題については、学校に確認し、対応方法を検討する。

- (保護者)

通級教室や教育支援センターなど、学校に行きづらさを感じている子に対する事業を実施しているが、その理由は個人ごとに異なっている。親としては、集団生活で学んでもらいたいという思いがあるし、学校以外の場所に行くことに抵抗がある子も、少人数の学校であれば通学できる子もいる。少人数の学校の良い面(少人数だからこそその音楽会や運動会で保護者同士の譲り合いなど)も多くあると思うので、学校を残すという選択肢も考えてもらいたい。

⇒少人数もメリットがある一方で、現在の大芦小学校が抱える課題もあり、教育委員会では令和10年度の統合に向けて取組を進めていきたいと考えている。小規模特認校については、今後に向けて調査してまいりたい。

- (保護者)

令和9年1月に校長先生から、児童に話をする予定とのことだが、令和8年度から児童が何も知らずに交流事業を実施することになるのか。

⇒今後統合が予定されていることを児童に伝えた上で、交流事業を実施していく。

- （保護者）

熊谷市では、統合時期を7年後に設定した上で説明を行っているため、在校生は統合前に卒業し、未就学児は統合を前提に入学することになるから、反対意見をもつ保護者は少ないと聞いている。鴻巣市においても、統合年度を10年後にするなど、計画の進め方に問題があったのではないかな。

⇒教育委員会では、令和4年度に開催した鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会の答申を踏まえ、統合予定年度を令和6年度から令和9年度としてお示ししている。

学校や地域の実情はそれぞれ異なるため、一律に年度や進め方を定めるのではなく、保護者や地域の意見や児童数の推移を踏まえながら、統合年度について検討を進めてきた。

十分な意見交換を行う前に統合年度を決定することについては、様々なご意見があると認識している。そのため、教育委員会としては、保護者や地域の皆様のご意見を伺いながら、検討を進めているところである。

-----②ここまで(③は新規の参加者なしのため、②の質疑を継続)-----

- （保護者）

12月に正式に統合が決定したら、来年、先生から子どもたちに説明するということでよいかな。

⇒正式に決定となった場合、令和9年の最初の全校朝会にて教育総務課長及び校長より子どもたちに説明する。

- （保護者）

吹上小学校に在籍していた1年生のときは、1学級に32人いて、教室内の通路を通れないほど余裕がなかった。大芦小学校が統合された場合、教員の人数や教室はどのような対応になるかな。

⇒教室については、1学級の35人という基準があり、これも踏まえ、現状の教室数で対応できるため、新たに増やすことはない。教員については、統合された学校は、統合加配で増員になる可能性があるが、1学級に追加で先生が配置されるということはない。

- （保護者）

令和10年度で統合された場合、5年生は何学級で何人になる予定かな。人数の多い学年は何年生かな。

⇒令和10年度で統合された場合、5年生は116人で4学級。各学級の人数は、28～29人の見込み。5年生が一番多い学年となる。

- （保護者）

令和10年度統合に向けて進めているということだが、昨年度の令和9年度統合を1年延期しただけで、準備期間は十分に確保できるのかな。

⇒令和9年度統合とした場合、令和7年12月議会に条例改正案を提出し、議会の承認をいただけ

れば、十分な準備期間を確保することができた。しかし、令和7年度には、通学区域に関するアンケート調査等の実施により、条例改正案の提出が令和7年12月議会に間に合わず、過去の事例と同様の準備期間を確保することができなかったため、引き続き検討することとなった。

一方、令和10年度の統合であれば、令和8年12月議会に条例改正案を提出し、議会の承認をいただけた場合には、過去の事例と同様の準備期間を確保することができる。

- (保護者)

旧小谷小学校の時はどのような交流事業を実施したのか。子どもたちの様子も含め教えてほしい。

⇒はじめは緊張している様子が見られた。吹上小学校の子どもたちと交流していく中で、仲良くなっていく子、緊張が続く子など、子どもによって様子は様々。

交流が促進されるような授業を、それぞれの担任先生たちで考えて実施している。

大芦小学校と吹上小学校についても、令和8年度中に1回、令和9年度はオンライン含め3回程度、合計4回程度の実施を考えている。

交流事業の具体的な内容としては、以下のとおり。

【小谷小学校の例】

第1回

自己紹介・校歌紹介・レクリエーション(合唱、運動等)・学校探検・感想発表

第2回

- ・1年:体育(ボール渡しリレー)・国語
- ・2年:算数(1mを探そう)・体育(縄跳び)
- ・3年:体育(リレー)・クラブ見学
- ・4年:国語・クラブ見学
- ・5年:ペーパー芯ロケット(理科)・クラブ見学

- (保護者)

令和10年度の統合は決定事項なのか。あいまいな状態では、保護者も子どもたちも不安である。今回の意見交換会を開催した趣旨は何か。

⇒教育委員会では令和10年度の統合に向けて取組を進めている。ただし、正式な決定には議会の議決が必要であることから、令和10年度統合予定と記載している。

今回の意見交換会は、令和10年度の統合に向けて、皆さんが感じている不安や課題、御意見等をお伺いし、今後の取組に反映していくことを目的として開催したものである。

- (保護者)

12月の議会までに要望を取りまとめるということか。

⇒議会においても、要望や課題の把握状況について質問を受けることがある。意見交換会等でいただいた要望や課題については整理し、対応の可否を含めて、統合に向けて検討していく。

- （保護者）

令和 10 年度の統合を廃止することはできないか。

⇒議会で、もう少し保護者の意見を聞くべき、統合年度を再考すべきなどとされた場合は、再度検討することになる。